

武庫川との17年

久野 武*

1. はじめに —三田人になる—

ぼくは1996年4月、それまで29年間勤務した環境庁（現・環境省、なお「29年」には前身の厚生省国立公園部時代を含みます）を辞して、三田市にやってきました。その前年に三田市に開設された、関西学院大学（関学）総合政策学部（ソーセイ）の教員として、第二の人生のスタートを切るためです。三田へは夫婦二人きりで来ました。はじめて家族が分かれて過ごすことになりました。子供たちは首都圏に残ったのです。

大学に来たのは、ぼくが希望したわけでもなんでもありません。93年には国立環境研究所の管理畑の役人をしていましたが、そのときに関学に新しい学部ができることになり、環境庁へも教員の派遣要請があったので、ぼくに行けという話が来たのです。学位もなければ、研究経歴もないし、大学院にすら行っていません。大学に行くことなど、夢にも思ってもいませんでした。そんなぼくに白羽の矢が立ったわけです。

ぼくにはムリだと抵抗したのですが、この話を断ればキミの将来はないと脅され、不安に駆られながら、開学2年目の1996年から来ることになったわけです。

とりあえずの住まいは大学から紹介してもらった、三田市にあるフラワータウンというニュータウンの高層マンション。ただし、1年以内に自分で住まいを探して、引っ越すというのが条件でした。

さまざまな引っ越しに伴う雑用、そして大学での馴れぬ日々の開始、さらには住宅探しにクルマ探しと、盆と正月が一緒に来たような慌ただしい日々がはじまったのです。

2. 武庫川畔を望む陋屋に居を定める

住宅探しですが、ぼくの最大の趣味は小学校時代からの鉱物の採集と蒐集で、膨大な鉱物コレクションがマンションの一室に、ぎゅうぎゅうに押し込んであります。それをきちんと収納できるスペースが欲しく、となるとマンションではなく、一戸建てとなります。

三田は当時人口増加率日本一で（9年間連続日本一）、市内のニュータウンの一戸建ては中古でも軽く5千万円を超えていましたから、到底手が出ません。そこでそれ以外の手頃な物件を探していました。

何軒か見て回った後、三田の外れ、広野の高台にある「スカイタウン」というミニタウンの中古住宅を見にいきました。住宅自体は安普請の平凡な二階建てですが、その立地が一目で気に入ってしまいました。ミニタウンの端っこに位置し、裏は住宅でなく竹林で、それが急斜面で下の市道まで続いています。竹林越しには武庫川の堤と相野川の河道が走るのを望めますし、その向こうの丘に沈む夕日は、たとえようもない美しさでした。JRの広野駅に歩いていけることや、青野湖も徒歩圏であることも手伝い、購入することを即座に決断しました。

コレクションの収納ですが、駐車場の上にピロティ方式で建て増しをし、これを標本室にすることにしました。工事が終わった97年早々に引っ越しましたが、この陋屋が終の住処になってしまいそうです。

ただ所有者も分からない裏の急斜面の竹林は放置されたままで、今では竹林のなかには立ち枯れした竹が密集し、まったく陽を透さない竹藪になりました。季節には筍を提供してくれますが、見逃した筍が何本も住宅側に侵略してきますので、防戦に大童です。また当然のことながら、竹林には蚊がつきもので、それには悩まされます。

2000年ごろからの数年間、竹林のどこかにタヌキの一家が住みついたらしく、毎夜のように庭に出没しましたが、いつしか姿を消してしまいました。どこかで連綿と命をつないでいてくれればいいのですが…。

3. ゼミのこと 1 —観蜚パーティの開始—

さて、自宅までの広野駅からの帰路はいつも広野大橋を通り、対岸をまっすぐ高台に登っていくのですが、広野大橋からはホテルを見たことはありませんでした。

確か99年の6月のことだったと思いますが、思いついて少し上流を散策してみました。なんと広野大橋からほんの100メートルほど上流の、相野川との合流点から先にはホテルが至る所で光っているではありませんか。本流だけでなく、自宅裏の竹林下の市道脇の水路にもいるのを知って驚きました。さらに驚いたのはワイフによるとスカイタウンの住民の誰もがホテルが近傍に棲息していることを知らなかったことでした。

*関西学院大学名誉教授/前武庫川上流ルネッサンス懇談会座長

2週間ほどでホテルは姿を消しますが、そうするとさらに上流を探索すればいいということで、以後毎年6月から7月にかけて、自宅近くの武庫川畔から、武庫川支流の青野川まで出て、そこを遡り、最後は青野溪谷ニ滝に至る、いろんなポイントでホテルを楽しむのが日課になりました。どこのポイントでも観望を楽しんでいるのはぼくたちだけで、貴重な秘密を独占しているような優越感にひたることができました。

さて、ぼくは大学ではゼミ生をフィールドワークに派遣するなど、ゼミ活動に力を入れていました。そこで翌年から、この時期にゼミ生十数名と我が家でナベパーティをやり、そのあと徒歩で武庫川畔観望会をすることを、ゼミ行事の一つにしました。

ゼミ生のほとんどは都会育ちで、ホテルを一度もみたことがなく、その神秘さに魅入られるのをみるのが楽しみでした。

その後、06年になって、「武庫川上流ルネッサンス懇談会」に関わるようになったのですが、懇談会については、第一号に執筆しましたので、省略させていただきます（『武庫川上流ルネッサンス懇談会』総括試論）。ただ、ゼミ生を毎年最低一人はこの懇談会に張り付け、会議を傍聴させるだけでなく、イベント等のボランティアをさせるとともに、そうした活動を何らかの形で卒論に反映させるようにしました。卒論だけではなく、大学院に行き「武庫川流域の土地利用の変遷」を研究テーマにしている院生も生まれました。また、懇談会運営の委託先の「一成」が別途行っている、青野ダム魚道の普及啓発団体の「青野ととみち倶楽部」にも何人かが参加するようになったりと、武庫川ファンを何人も作りだすことが出来ました。

4. ゼミのこと 2 -羽束川での「野活」-

08年は悲喜こもごもの思い出の多い年になりました。嬉しい話は「野活」です。毎年5月3日には、武庫川支流の羽束川上流にある三田市営の野外活動センターと言うキャンプ場に、OBと現役が集まります。そして、午後BBQをやり、その夜は三田市の温泉に行き、遊んで食べた後、キャンプ場のロッジに戻り一泊します。それが「野活」と呼ぶ、OB・現役交流会です。野活をはじめたのが08年だったのです。

言い出しっぺは8期生、9期生ですが、毎年BBQには8期からのOBが3~40名、現役が5~10名集まります。ぼくたち夫婦もBBQには参加しますが、ここ2、3年は赤ちゃん連れでくるOBもちらほらいます。今年の野活は42人が参加、はじめて6期生も参加してくれました。この集いがこれからもつづくことを期待しています。

5. ゼミのこと 3 -りゃんりゃんとの永訣-

08年には悲しい出来事もありました。

中国人留学生の霍亮亮（カク・リャンリャン、以下「りゃんりゃん」と表記）とのお別れのことで

99年度入学のりゃんりゃんは、目のくりくりしたとても明るく可愛い、そして優秀な子でした。ぼくの授業を聞いて、どうしてもぼくのゼミに入りたいと思ったそうです。そして3年生からは5期生としてぼくのゼミに所属しました。観望パーティでは、生まれてはじめてホテルを見たと言って大感激していました。

研究者志望で、卒業後は京大の大学院に入りました。大学院の課題で、里山レポートを書くとき、武庫川上流を対象にしたいとあって、支流の青野川源流にある「母子大池」を一緒に歩いたこともあります。そして英国に留学したあと、院を修了。なにがあったのか、研究者の道をあきらめ、小さな会社に就職しました。

彼女には大学の頃からつきあっていた中国人留学生の恋人がいました。同じソーセイです。就職後、彼氏とすぐ結婚しましたが、その後も何度もぼくの家に夫君と一緒に遊びに来てくれ、とても幸せそうでした。

08年6月の或る日、りゃんりゃんの夫君から、りゃんりゃんが入院しているという電話を受けました。すぐにワイフと宝塚の病院に駆けつけましたが、そのときは既に意識がなく、昏睡状態でした。

夫君に事情を聞きました。数ヶ月前から微熱が出て、いろんな検査をしながら、治療を受けていましたが、悪くなる一方なので入院したそうです。結局、病名も不明なまま、好転することなく、この日から意識不明になったとのことでした。

その翌夕、武庫川上流ルネッサンス懇談会のホテル観望会にでかけているときにケータイが鳴り、夫君から訃報を知らされました。享年は確か29歳。余りに早すぎた死でした。

直ちに同期の5期生に連絡。小林のりゃんりゃん夫婦のアパートに、みなで最後のお別れにいきました。安らかな死に顔でした。

夫君はずっと泣き崩れたままで、りゃんりゃんの勤めている会社の社長夫妻がずうっと親代わりに弔問客の対応をしてくださいました。会社でもほんとに陰日向なく働くいい子だったと褒めちぎっておられました。

遺体は中国に持って帰り、お葬式をしたいとのことで、新聞記者をしているゼミ同期のIT君がいろんなところに電話し、段取りを調べてくれました。

その頃、「千の風になって」という歌がはやっていましたが、それを聞いたたびにりゃんりゃんを思い出し、涙ぐんだものでした。

ゼミの卒業生は二百人を超えていますが、亡くなったのはりゃんりゃんだけ。退職記念パーティのとき、彼女がいてくれれば—と思ったものでした。

両親も夫君も、そして本人にとっても余りに無念な早すぎた死でした。ですが、憧れの日本にやってきて、思いっきり好きな勉強をし、夢見た英国への留学を果たし、思いっきり働き、愛する夫君に看取られ死んだりゃんりゃんは、見事に短い生を生ききったといえるのかも知れないと思います。

